

各 位

平成 17 年 12 月 28 日
 会 社 名 株式会社 宮
 代表者 代表取締役社長 宮田永善
 (JASDAQ・コード 9901)
 問い合わせ先
 役職・氏名 専務取締役 近能欣充
 電話 0 2 8 - 6 3 4 - 3 8 1 5

「平成 18 年 2 月期中間決算短信(連結)の修正について」の追加について

平成 17 年 12 月 28 日付けで発表いたしました「平成 18 年 2 月期中間決算短信(連結)」につきまして
 内容の一部追加がありましたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

[追加箇所及び内容]

16 ページの後ろに追加

継続企業の前提に重要な疑義を抱かせる事象又は状況

前中間連結会計期間 (自 平成 16 年 3 月 1 日 至 平成 16 年 8 月 31 日)	当中間連結会計期間 (自 平成 17 年 3 月 1 日 至 平成 17 年 8 月 31 日)	前連結会計年度 (自 平成 16 年 3 月 1 日 至 平成 17 年 2 月 28 日)
-	当グループは、平成 17 年 11 月 30 日に公表しましたように、不適切な会計処理により過年度公表済連結財務諸表(中間を含む)を訂正する必要が生じ、シンジケートローンを含む借入金(以下、「ローン」という)に関して期限の利益喪失(ローンの即時返済)に係る請求の猶予(以下、「期限の利益喪失猶予」という)を受けていることから、継続企業の前提に重要な疑義が存在しております。中間連結財務諸表提出会社である当社は当該状況を解消すべく、平成 17 年 11 月 30 日付け取締役会をもって、かかる会計処理について責任のある担当者はもとより、十分な監督機能を果たしてこなかった経営陣を刷新いたしました。さらに、関係金融機関に提出するよう平成 18 年 1 月末までに中期事業計画の策定の完了を目標としております。その主な内容は、飲食業たる本業への回帰を前提とした収益の改善、財務体質の強化を目的とした飲食業以外のビジネスに係る資産及び遊休資産の売却、不採算店舗の閉鎖、本部及び店舗における経費及び人員の削減等を推進していくことであります。このような状況のなか、ローンの期限の利益喪失猶予及び短期借入金の借換えについて主要金融機関と交渉し、当面の期限の利益喪失猶予及び短期借入金残高維持へのご理解をいただいております。中間連結財務諸表は継続企業を前提として作成されており、上記のような重要な疑義の影響を中間連結財務諸表に反映しておりません。	-

以上